

平成21年度第2回三条市教育事務点検評価委員会会議録

1 開 会 平成21年8月11日(火) 午後1時30分

2 場 所 三条市役所栄庁舎2階201会議室

3 出席者 雲尾周委員長、村田洋子委員、若杉利行委員

4 説明のための出席者

松永教育長、池浦教育総務課長、小林学校教育課長、久住子育て支援課長、
嘉代小中一貫教育推進室長、金子生涯学習課長、駒形教育総務課課長補佐、
阿部教育総務課庶務係長

5 傍聴人 なし

6 会議次第

(1) 開 会

(2) 平成21年度 教育に関する事務の点検及び評価報告書について

(3) 閉会あいさつ

7 会議の経過及び結果

(1) 開 会

(池浦教育総務課長)

前回は第1回ということで、7月7日にこの委員会におきまして今年度の教育委員会の点検評価シートについてそれぞれ説明をさせていただいた後に、ご自宅にお持ち帰りいただいて、いろいろとご精査をいただきました。

本日はそのご指摘につきまして一覧の形でまとめさせていただいておりますので、それをご確認いただきながら、またさらに精査を進めていく中で最終的に取りまとめるというものです。よろしくをお願いします。

(2) 平成21年度 教育に関する事務の点検及び評価報告書について

「1 幼児教育・学校教育の充実」(1)について、嘉代小中一貫教育推進室長から説明あり
(雲尾委員長)

1点、私から確認したいのですが、2ページの「主な事務事業」②の先進地視察が福島県市立明健中学校・小学校だけになっていますが、教育委員は39ページに豊里小を回られています。これは違うものでしょうか、同じものでしょうか。

(池浦教育総務課長)

このときは変則的な日程の組み方をさせていただきました。教育委員からも先進地の様子について知っていただきたいという趣旨で、今回は東北方面の視察を設定しました。

小中一貫教育検討委員会では日帰り、教育委員は前日に宮城県登米市をご覧いただいたその帰り道で、相手方のご都合もございましたので、視察日程を合せる中で、明健小中学校と一緒に視察させていただいたものです。

(村田委員)

「よりよい教育環境づくり協議会」は、すべての小中学校にあるのですか。

(嘉代小中一貫教育推進室長)

小中一貫教育推進に当たり、それぞれ9つの中学校区単位で、小中一貫教育推進協議会を設けました。それぞれ学校区の各小中学校単位に「よりよい教育環境づくり協議会」を設けるものです。

(松永教育長)

新たに組織を作るというよりも、各学校には今まで、例えば須頃の教育を語る会や、自分たちの学校の後援会みたいな形でいろいろな組織がありました。そういうものを転用させてもらう形になります。

(村田委員)

名前は、よりよい教育環境づくり協議会ということですか。

(松永教育長)

今は、そういう名前で統一させてもらいました。

「1 幼児教育・学校教育の充実」(2)～(7)について、小林学校教育課長から説明あり

(雲尾委員長)

7ページ、「今後の方針」の最初にあります、茜号とはどのようなものでしょうか。

(小林学校教育課長)

スクールバスです。

(雲尾委員長)

「移動手段としての茜号、スクールバスなど」と書いてあり、茜号とスクールバスは別ものと読んだのですが。

(小林学校教育課長)

同じものです。寄贈を受けたところの名前がついたスクールバスです。スクールバスで統一させてもらってよろしいでしょうか。

(雲尾委員長)

名前をお出ししたいということであれば「茜号などのスクールバス」という感じになります。両方スクールバスであるなら表現を修正していただきたいと思います。

8ページに新しく加えていただいた「評価」の一番下の2行ですが、「朝食の欠食率が、調査対象の小5が」と「が」が続いていますので、「朝食の欠食率について」と修正いただきたいと思います。

(小林学校教育課長)

「朝食の欠食率について」に改めさせてもらいたいと思います。

(雲尾委員長)

9ページの下から2行目ですが、「また、学校食育推進事業については、今後も中学校区を増やしていくこととし」とあって、何の中学校区かが文面から読み取りにくいと思います。

(小林学校教育課長)

「対象の中学校区」としますか。

(雲尾委員長)

「また、今後も学校食育推進事業を行う中学校区」ですか。

(小林学校教育課長)

はい。では、「また」の後に「今後も学校食育推進事業を行う中学校区」といたします。

(村田委員)

8ページの後段に、欠食率が減少傾向にあると。それは大変結構だと思うのですが、前は何%だったか、何%が何%になったか。その減少ははっきりと出てきた方がいいのではないかと思います。

(小林学校教育課長)

はい。

(村田委員)

もう1つ、9ページの下から3行目に、「トキめき体力づくり認定証」が、どんなふうにかか。表現の問題ですが、認定証をもらうことが、もっと運動能力を高めようとするこの励みになるというか、そういう気持ちが大きく働いていく、それが大事なのではないかなと思いますので、「運動する喜びや運動技能を高める励まし」という表現に変えるといいのではないかと思います。

(小林学校教育課長)

「高まる喜び」の後に、励ましになるようなことも一言入れさせてもらってまとめたいと思います。

(雲尾委員長)

これは「トキめき体力づくり」ですか、「づくり」ではなく。

(小林学校教育課長)

確認します。

(村田委員)

「心と学びの教育フォーラム」がいじめ根絶スクールと合わせて実施されてということが、10ページにも11ページにも出てきています。同じことが2度出てきて、すごくくだいような気がします。それで、不登校のことは上段にまとめてしまった方がいいのではないかと思います。

評価の5段階まで不登校のことが書いてありますので、そこへ不登校の対策に向けての「三条市のSSN事業」があることをその次に入れて、「また」からは、いじめのことに入るという書き方でどうかと思います。

(小林学校教育課長)

村田委員からご指摘のSSNですが、一応、不登校のことだけではなく、いじめ関係、虐待等も含めています。

(村田委員)

私は、ぱっと読んだときに、心と学びの教育フォーラム、いじめ根絶スクール、そのことが10ページにも出てきて、また11ページにも同じ表現で、何人参加したかということも入れて出てきていると思ったんです。すごく短い文なのに、同じようなことを2度述べているのはす

ごくくどいです。一考してもらえればと思います。

(小林学校教育課長)

再考させていただきます。

(雲尾委員長)

10 ページの「さらに」の段落に書いてある内容と、11 ページの4行目から6行目の内容が全く重なっていると。10 ページの方が詳しいわけですが、11 ページでまとめているものは取ってもいいのではないかというご意見かと思います。ただ取ってしまうと、つながらなくなりますが、取ってしまうのか、村田委員のご意見でSSN事業と直接つなげて書くかという話になるかと思います。

(小林学校教育課長)

ここで改めて書くことではないので、終わりの方は取らせていただくというのがよいと思います。

(雲尾委員長)

2行目以下も全部取ってしまうと分かりやすい修正であるとは思いますが。

(小林学校教育課長)

はい。

(村田委員)

12 ページの「評価」の最初に「特別支援教育が」と出ていますが、「従来、障がいとは必ずしも」と、ない方が、文が素直に流れると思います。

(小林学校教育課長)

はい。

(村田委員)

「平成 19 年度に特殊教育から特別支援教育への転換が図られ」というものを、「特別支援教育が」に変えてしまうと文が素直に流れるかなと思います。

それから「6.3%となっている」で文が切れますよね。その次に、後段の「特別支援学級の児童生徒だけの教育から、全校を対象にし、1人ひとりの特別な教育的ニーズに合わせた支援に対象が広がった」を入れたらいいのではないかと思ったんです。そうするとその次の、特別支援教育指導員の配置がいるんだということが生きてくると思います。

(小林学校教育課長)

「平成 19 年度に特殊教育から特別支援教育への転換を図られ」を頭に持ってきて、4行目「6.3%となっている」の後に「特別支援学級の児童生徒だけの教育から、全校を対象にし、1人ひとりの特別な教育的ニーズに合わせた支援に対象が広がった」と。その後に「特別支援学級児童生徒への介助のみならず」が来て、一番最後が「平成 20 年度は4人を増員する」とつなげるということで修正します。

(村田委員)

また、20年度に4人に増員することが短いところに2度出てきています。その辺りの文言の削除を考えていただくといいのではないかと思います。

(小林学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

原案では、第一指標の説明文と総合評価と分かれていたので別々に書いていて問題はなかったのですが、今回は評価を一緒に書いていますので内容が重なってくる場所が出ています。そこを合わせて考え、整理してください。

(小林学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

それから、今回加わりました「外部の方からの主な意見等」で「保護者や地域住民が、特別支援教育についてよく分かっていないという現実がある」というご指摘はいいと思いますが、その前に「啓発活動を積極的に行う必要があると考える」とあります。地域住民を啓発活動という形で対応はできると思いますが、保護者の場合は啓発活動のみならず、いわゆる情報提供という形で示さないと、教育委員会には何も責任がないみたいなニュアンスが出てくる場合がありますので、情報提供を積極的に行う必要があると書いていただきたい。

(小林学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

従いまして、13 ページ、「今後の方針」の下から 3 行目、最後の段落も「保護者や地域住民へも、特別支援教育に関する情報提供・啓発活動を積極的に行う必要がある」と書いていただきたい。

それから、最後の一文「地域の拠点校である月ヶ岡養護学校との連携を強化し、研修等においても協力しながら実施していくものとする」というのが、今の「また、保護者や地域住民へ」と同じ段落に入っていますが、内容的には別です。別な段落にしていきたい。

「地域の拠点校」という表現が、特別支援教育に関するということで、分かるといえば分かるんですが、地域の拠点校というのをもう少し正確な表現していただけるとありがたい。

(小林学校教育課長)

はい。分かりました。

(雲尾委員長)

栄中学校改修事業、14 ページですが、「今後の方針」の 1 行目、「栄中学校の大規模改修工事は平成 20 年で完了したが、学校施設等の整備については」のところに「全市の」と一言入れていただけると、より分かりやすくなるかと思います。

(池浦教育総務課長)

はい。

「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(1) 及び(2) について、久住子育て支援課長から説明あり

(村田委員)

18 ページ、「家庭教育講座の開設」の「内容」の 2 行目ですが、「保護者に対して子どもの

成長に合わせた」という表現になっていますが、「保護者を対象にした」でよいと思います。

それから「主な事務事業」①の1行目「妊娠期から子どもの成長に合わせた」という点は、何々から何々までという書きの方がいいのではないかと思います。いつからいつまでの子どもの成長に合わせた教育講座を開設するののかという書き方もいいのではないのでしょうか。

(久住子育て支援課長)

では「妊娠期からと思春期の子どもまで」という形の表現にします。

(雲尾委員長)

児童期と就学期は、児童期の方が先ですか。

(久住子育て支援課長)

就学期の方が先です。就学期はちょうど小学校1年生に上がる前ですので、講座の記載順は入れ変えさせていただきます。

(村田委員)

「評価」の下から2行目の「検討した上で事業実施した方が」からが、すごく客観的すぎるというか、自分のことでないような言い方になっているのではないかと思いますので、直していただければと思います。

(久住子育て支援課長)

「事業実施をしていく」か「事業を進めていく」か、そのように変えさせていただきます。

「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(3)について、金子生涯学習課長から説明あり

(村田委員)

19 ページ下から2行目の「絵本については」という書き出しは、「絵本については」はいらぬのではないのでしょうか。絵本そのものというより、その絵本をどうするかをここで言っているわけですので。

(雲尾委員長)

「絵本については」を取って「また」とした方がいいのでしょうか。また、「配布を継続し」から「さらに」とつなぎ、「また、ブックスタート会場での絵本紹介やブックリストの配布を継続し、さらに図書館内での紹介展示やおはなし会を貸出につなげていきたい」と変えていただくことということでいいのでしょうか。

「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(4)について、久住子育て支援課長から説明あり

(村田委員)

「主な事務事業」の①の最後ですが、「周知・啓発活動に努めた」は「周知・啓発に努めた」と、「活動」を取った方がいいですね。

(久住子育て支援課長)

はい。

「2 学校と家庭・地域との連携の推進」(5)～(7)について、小林学校教育課長から説明あり

(雲尾委員長)

22、23 ページのスクールアシスタント制度で、「今後の方針」の「特別支援教育に関連し」の文章が、「特に」という言葉でつながっていて、「特色ある学校づくりのお手伝いとなるように努めるものとする」と「特に、特別支援教育に関連し」は、関連性が分らないですね。

特色ある学校づくりの中での特に特別支援教育に関連しという文章になっています。「また、スクールアシスタント懇談会で要望があった」と付け加えて書いていただいた方が正確かなと思います。

(小林学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

お手伝いではあるけれど、直接的に特色ある学校ということではないので、このようにしていただければと思います。

(村田委員)

24 ページ「主な事務事業」の①はすごく長いですね。全部一文なので、どこかで切った方がいいと思います。

(小林学校教育課長)

「構築を図る」で一旦切らせてもらいます。

(松永教育長)

やっているなら「構築を図る」は「推進する」とし、「さらに小中一貫推進を」と続けては。

(小林学校教育課長)

やっていますので、「構築を図る」ではなく「構築を図っている。さらに小中一貫教育推進に向け」ということで切らせていただいて、2文にさせていただきたいと思います。

「3生涯学習の充実」(1)～(5)及び「4文化遺産の保護と活用」(1)～(4)について、金子生涯学習課長から説明あり

(村田委員)

27 ページの現代的課題等で14講座と触れて、それだけの受講生があったと、それは分かるんですけども、パソコン教室はちゃんと何講座で何人ということが出ているわけです。評価の中の「国際理解」は、今ほど3講座やったと言われました。3講座で何人ということは書けるわけですので、そこを入れてもらってもいいんじゃないかなと思います。

(金子生涯学習課長)

「主な事務事業」の各講座というところでしょうか。

(村田委員)

いえ、「評価」のところにそれがいるということです。

(金子生涯学習課長)

点検シートですか。

(村田委員)

現代的な課題への取り組みが、この26ページでは少ない傾向にあって、担当課としては不

満であるというふうな書きぶりですよね。そして 27 ページでは、「一定の評価を得た」という書き方が2つ、こっちから見れば非常に不満であるが、こっちの現代的な課題からだけ見れば評価してもいいという表現になっているわけです。

だったら、こちらのシートの方にもどういった参加があったのか、一部入れているところでもありますし、個人的にも人数とか知りたかったので、入れたらどうかと思います。

(金子生涯学習課長)

点検シートのところを直せば。

(村田委員)

「評価」のところでカッコに入れてはどうでしょうか。

(金子生涯学習課長)

それぞれの数字ですね。何講座何人と。分かりました。

(雲尾委員長)

31 ページですが、参加人数は重なってはいないですか。同じ人が2か所に応募したりはしていないんですか。

(金子生涯学習課長)

それはないです。別の方です。

(雲尾委員長)

35 ページの「文化財保護団体への支援」でございますが、いかがでございましょうか。評価の文章自体には、最後に「総合的には目標を上回る成果に達したものである」と書かれておりましたので、その時点でBではなくAという表現になっているわけですが、評価はAということによろしいですか。

(「異議なし」の声あり。)

(雲尾委員長)

では評価をAに修正願いたいと思います。

それから、先ほど「まちづかいの会」というものは説明がありましたが、この「まちづかいの会」とはどういうものですか。

(金子生涯学習課長)

三条の中心市街地に町屋等がありまして、そういった町屋を活かした町づくりをしたいというような研究されている会があります。それと一緒に現在町屋あるいは寺院、神社等の調査を目指したものです。

(雲尾委員長)

その会の名前が「まちづかいの会」ということですね。

(金子生涯学習課長)

そうです。まちづくりではなくまちを使うという意味で命名されています。

(雲尾委員長)

それはそれでいいのですが、「「まちづかいの会」などが」と固有名詞で書かれても分からないといいますか、出す必然性があるのかなということと、表現としてももう少し分かりやすくした方がいいと思います。

これはNPO団体ですか。

(金子生涯学習課長)

任意の団体です。

(雲尾委員長)

NPO法人ではなく任意の団体ということですね。会の性格か何かから、「何々に関する団体が」という形で書いていただいた方が分かるのではないかと思います。

(松永委員長)

町屋とか歴史的建造物などの調査をやる任意の会などが組織され、広がりが高まってくるといいうい方もできる。「まちづかいの会」を説明するものを頭に入れてくれば。

(金子生涯学習課長)

まちづくりに関わる市民団体というようにします。

(村田委員)

36 ページ「文化遺産の公開・活用について」ですが、「評価」の文章で、すごく参加者が増加している。どうしてこんなに機運が高まってきたのか、なぜ増えたのかという辺りを一言欲しいなという気がします。こんなにも参加者が増えているので、着実に三条の歴史に親しむ市民が増えているということで続けばと思います。

(金子生涯学習課長)

現象面だけでなくその要因ということでしょうか。

(村田委員)

はい。

(雲尾委員長)

歴史民俗産業資料館で5,000人増というのは何か要因はございますか。

(金子生涯学習課長)

興味がある企画展を開催されてきたことの結果だと思います。

(雲尾委員長)

そうするとやはりこれは「企画展の工夫により」という文言を加えていただいた方がよろしいかと思います。

あと37ページ以降は記録ですので、記録のことでは特にないでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり。)

(雲尾委員長)

ということで全体を通しまして確認いたしました。何か所か修正はございますが、その修正通りやっていただいて報告としていただくということでよろしいでしょうか。

(池浦教育総務課長)

一旦、修正したものを各委員に発送させていただいて、ご確認いただいた後に手続を踏ませていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

それは大体いつ頃になりますか。

(池浦教育総務課長)

盆明けには届くようにしたいと思います。

(雲尾委員長)

議題につきましては終了しまして、進行をお返しいたします。

(3) 閉会あいさつ

(松永教育長)

本当にありがとうございました。私どもにとりましては、2年目といいながらも、事務事業を見直しながら、自分たちのことを自分で評価していくという中で、やってきたことに対して反省するやら、あるいは今後の方針等についても考えさせられました。

それに対してまた委員の皆様方から非常に詳細なところまで目を届かせていただいた中で、文章表現等もご指導いただきました。すぐまた修正しながら、委員の皆様にご補足して確認していただきたいと思っていますし、9月議会にはこれを議会に報告して、その後公表していきたいと考えています。

これで20年度の点検及び評価は終わらせていただき、また来年度に向けていろいろあると思うので、直しながらやっていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

閉 会 午後2時56分